



2022年2月27日

✉ fact@mbs1179.com

フェイクニュースがまたたく間に広がる時代。
どこまでもファクト(事実)を追い求める
ジャーナリスト・立岩陽一郎が
あなたをファクトチェックの世界に誘います。

「機械にも愛を」

15年目のAI自動車、家出相次ぐ

完全自動運転を実現したAI自動車が発売されて15年。昨年以降、初期に出荷された車両が勝手に家を飛び出す事例が相次いでいることが23日、わかった。

警察庁の行方不明車統計報告書によると、該当車両は計1965台。昨年11月29日未明、渋谷区内で起きた事例では、持ち主から通報を受けた署員が同区内、パラレルタワー歩道橋付近で乗員不在の該当車両を発見。職務質問をしたところ「行き先も解らぬまま暗い夜の帳(とぼ)りの中へ走り出していました。すみません」と素直に謝った。車両はそのまま帰宅したという。

家出車両が発見される場所は海岸や展望台などさまざまだが、すべて発売から15年が経過した初期型で、車内からはある歌手の歌が繰り返し流れていた点が共通していた。歌手は20世紀後半、若者の心をつかむ歌を作詞作曲したことで知られる人物で、パラレルタワー歩道橋

にはその活動記念碑が残されている。報告書は「いずれの場合も車両が安全に帰宅していることから、事件性はないものと考え」と結んでいる。

国土交通省は「多感な15年目の夜、行く先もわからぬまま夜の帳の中へ走りだすリスクが極めて高い」として、AI車両が搭載する基本ソフト(OS)を最新版に更新するよう利用者に注意を促した。また、17年目になると「十七歳の地図」を勝手に描いて走り回るおそれもあるとして、メーカーに対し、修正パッチの開発を急ぐよう要請している。

人工知能に詳しい京都帝国大学人工芸能学部の坂本義太夫教授は「15歳、17歳はAIにとっても多感な時期。命令ばかりでなく、そっとしておくことも成長のためには必要だ」と話す。ヘラジコネーム rymstさんv

UKのコメント



UK (虚構新聞社 社主)

文体・内容ともによくできていて感心しました。実際に書いてみると分かりますが、新聞らしい文体には「お約束」が色々あって意外に難しく、初めてでここまで書けたのは本当にすごいと思います。

ただ、元の投稿記事では詳細を書きすぎて全体的に文章が長くなった感じがあるので、記事の背景にある元ネタ(尾崎豊)に読者を集中させるため、関係の薄い内容は省いてまとめるなどしました。また新聞記事ではあまり使わないような言い回しも修正してあります。

この調子でまた次回投稿も期待しています！

あなたのファクトチェック&虚構ニュースを
お待ちしております！